休日向上計画

佐藤　透[1)]
Toru SATOH
1）医療法人社団涼風会佐藤脳神経外科
〒729-0104　広島県福山市松永町 5-23-23

百花繚乱

はじめに

一念発起して 1991 年 9 月，郷里で有床診療所を開業した．3 階に間借りした生活を終えて，2001 年 9 月，近隣にわが家を持った．地べたに住むとなると，必然，草木花々の自然に囲まれる生活環境となった．庭のスペースは，おおまかに，藪庭（やぶにわ），芝庭（しばにわ），花庭（はなにわ）に区分けされた．

藪　庭

庭の奥は，竹林（ちくりん）がいいかも．子どものころ，故郷の医院裏山には，ちょっとした竹藪があった．“おまえんっち，藪医者のやぶ～”，ってからかわれたこともあった．でも“竹の子医者よりはまだまし，これからどんどん藪になるんだって”，なんだか落語の世界．裏山は赤土に恵まれ，わらび，ぜんまい，やまいもなどの山菜が，あふれんばかりに採れた．

季節になれば，竹の子（筍）が次から次へと出てきた．竹の子堀りは子どものお仕事．深く，根っこ先端にたどり着くまで，親竹の根を傷めることなく，じっくり，あきらめずに掘り続ける．根気の要る作業は，朝から晩までの 1 日仕事．日が暮れるころには，余るほどの戦利品を手にした．

この竹藪は，かつて食糧難の時代，藪に大きなかすみ網を張り巡らせて，“ちゅんちゅんスズメ（雀）を一網打尽に仕留めて，ドングロスの麻袋に入れて，焼き鳥の食用にさばいていた”．これは兄貴さんの話．ほんまぁかいなぁ．

やっぱり竹，竹林がよかろう（**図 1**）．ありふれた中国原産の孟宗竹（もうそうちく），白い粉噴く節目と新鮮な緑の稈（かん）から

図 1　やっぱり竹，竹林っていいよな

図 2　純国産の平咲きガクアジサイがいい

図３　竹藪の奥に八重山吹

図４　竹枝にとまるクマゼミのつがい

なる精悍なコントラスト．彩りに，稈が黄金色になると言う金明孟宗竹もちらほらと混ぜる．縁取りには，女竹，黒竹がいいなぁ，竹細工に釣り竿にと重宝する．その裾には，ジャイアントパンダの熊笹（隅笹）がいい．

竹の合間には，酸性土壌ならば青，アルカリ性ならば赤と七変化する，アジサイを植えておこう．こんもり手毬の西洋アジサイもいいけど，国産の平咲きガク（萼）アジサイがもっといい（**図 2**）．晩春に，緑の中に多数の明るい黄色の花をつける，実のできない八重山吹もお気に入り（**図 3**）．

鷹狩りに来て，にわか雨に遭遇した太田道灌，雨具を借りようと立ち寄ったあばら家，差し出されたるは一輪の山吹の花，“七重八重・花は咲けども・山吹の・実の（蓑）ひとつだに・なきぞ悲しき”．ぺんぺん，にわかに始まるは，林家正蔵の落語噺か，講釈講談か．花を捧げたる小娘・紅皿は城に招かれ，道灌の歌道の友となり，亡き後は尼となり，結んだ庵．新宿は東大久保，東京医科大学裏手の西向天神社に祀られている．医学生のころ，休講の合間に，ちょくちょく出向いた息抜きのスポット．

５月の連休明けころには，筍もぼちぼち味わえる．織姫と牽牛の七夕には，ささの葉さらさら，グループホームや老人ホームなど，介護施設の“のきば”で，葉竹を提供する．春先には，“デデッポ～でぽっぽ～”と鳴く雉鳩（キジバト）が営巣して雛を孵す．夏には，なぜかシャンシャン～シャンシャンシャ～ンと大音量で，クマゼミのオーケルトラ会場に変身する（**図 4**）．この藪庭，この自然はお気に入り．

芝　庭

竹藪に続いて平屋までは，姫高麗芝をべた張りして，緑の映える芝生としたい．年中無休のエバーグリーンをイメージしていたら，春先までの冬の間は，枯れて休眠状態．４月ごろから若葉が芽生え５月には一気に緑となる．憧れの芝刈りに挑戦する．手押し式芝刈り機でサクサク芝をお散髪するのが夕暮れ時の日課．刈り上げる芝の緑は，懐かしい自然の匂い，心地よいひとときとなる．

いつまでも緑の芝庭と思いきや，梅雨明けごろからは，雑草の深緑がちらほら，あっと言う間に一面が雑草に侵略された．雨上がりの休日は，日中の草取り作業の時間．麦わら帽子に，長袖長ズボンに，薄手の園芸用軍手，右手にコテ，左手に缶ビールのスタイルで，どっしり腰を据えて取り掛かる．草取りの極意は，“根っこを残さず引っこ抜く技なり”だって．何はともあれ，根こそぎ抜き去る．一本一本抜いてくと，やがて

雑草はなくなる．千里の道も一歩からって，これまたほんまぁかいなぁ．“こいつらぁ何がために生えてくるんじゃい，ほんに人迷惑なやっちゃ”．だけど，ただひたすら真面目に生えるのが雑草のお仕事だよね．どっしり根を下ろして繁殖する生命力の強さ．そこには，生きてゆくしぶとさがある．

夕暮れ時には，どこからともなく藪蚊が集まって来る．ちょっと油断してると，あっちゅう間に，あちこち刺されてミミズ腫れ．さっそくメッシュの防虫服を一式着込んだ．しかしぃ，やっぱりあちこちがチト痒い．メッシュの網目を狙っての，藪蚊の攻撃には，やはり敵わない．結局，麦わら帽子に，養蜂家よろしく，顔面の防虫ネット＋長袖長ズボンのスポーツウエアーが正解．これで，耳元で唸る藪蚊の鳴き声をBGMに，せっせと草取りお仕事に専念できる．

いつもの芝庭の朝は，離し飼いにしている愛犬ター坊（turbo，ターボ）の散策から始まる（**図5**）．雑草に戯れ，竹藪～芝庭をお散歩して，お気に入りの竹に芝にと，遠慮なく掛け尿を施す．そんなに縄張りしなくても，よその犬は入ってこないのに．

花　庭

お楽しみの花庭は，北東コーナーにある．花壇の淵は矮性（わいせい）クチナシで描こう．”どこまでも・クチナシ匂う・庭散歩“．中央には，濃い真緑色の葉に包まれた鮮やかな紅，サルビア（緋衣草）がいい．”いつもぉいつもぉ想ってたぁ～“，「サルビアの花」はコッキーポップの時代だったかな．5月連休前から晩秋まで，花芽を摘んでやれば，またぞろ紅い花の絨毯が楽しめる（**図6**）．

梅雨入りまでの6週間は，ナメクジ（蛞蝓）にご用心（**図7**）．一晩で若芽が一面丸坊主となる．ナメクジ退治には，定番の塩がいいけど，お花畑には使えません．ナメクジ駆除には，ビール作戦がいい．飲み残しのビールをトレイに入れる．一晩放置すると，びっくりするほど集まり，溺れて死んでいる．飲み逃げされると子孫を繁栄させ，またぞろ押し寄せ，火星怪獣ナメゴンの大逆襲となる．ビールに害虫駆除剤マイキラー（メタアルデヒド）を3～4滴加えてやると，すぐに固まって死滅する，これが賢明．

春先から初夏にかけては，水仙・すずらんから始まり，サルビア・パンジー・牡丹（ぼたん）・芍薬（しゃくやく）・菖蒲（しょうぶ）・カサブランカ・アジサイ・ドウダンツツジ・クチナシなどなど，われ先にと自慢の花を咲かせる．これら色とりどりに着飾られた花々は，まさに自然の美の競演．ぼんやりと庭を眺める昼下がり，草木の霊気が，庭の花壷いっぱいに広がりあふれ出る．心地よい癒しのひととき．これがためには，下地造りや肥やし，雑草取りなど，いろいろと庭いじり花いじりの手入れが欠かせない．

図5　投網補修と愛犬ター坊

図6　アジサイの白とサルビアの緋

図７　クチナシに這う火星怪獣ナメゴン

図８　ポーチュラカとモンキ蝶

夏場の陽照りには，ポーチュラカ（松葉牡丹）や日々草（にちにちそう）などの肉厚の葉の花がいい．乾燥・灼熱・高温の真夏日の間も，お手入れが簡単に済ませられる（**図８**）．ひとつの花の寿命は短いけれど，次から次へと日々花が更新され，ず～っと新しい花々で地表が埋め尽くされる．はみ出した芽は，切り取って植える．すぐに根が生え芽を出して，繁殖力は旺盛だ．

秋の始まりは，彼岸花（ひがんばな）（曼珠沙華（まんじゅしゃげ），狐花（きつねばな））からだよね．川の土手を掘り返して，かっぱらってきた球根だけど，忘れたころに突如，花芽が単独で天を目指して生えてくる．あっちゅうまにするりと伸びて，花火のように，放射状に赤色の花弁をつける．鱗茎にアルカロイドを大量に含む危なっかしい有毒植物だけど，なにやら怪しげで短命なはかない美しさがある．

雷鳴・嵐の大雨の翌朝，花庭に出ると，なんだか耳元が騒がしい．見廻してみと，桜の幹に，ミツバチが巣を創ってるではないか（**図９**）．抜き足差し足で離れて，用心しながら再び近寄って観察してみる．この雨風で元巣が飛ばされて，女王蜂を抱えての，流浪の旅に出たところだろう．これは，絶好の被写体だ，あわよくば蜂蜜が採れるやも，うっしっし，って思ってたら，翌朝にはもぬけの殻．“あはぁ～あいつら，トンズラこいたなぁ”，新天地目指して飛び立っちゃった．

図９　ミツバチと黄色い彼岸花

おわりに

地べたに根を生やして，住み着くこと，はや10年になる．今では藪庭・芝庭・花庭の自然に囲まれて，いろいろな四季が楽しめる．“心清き花の春，心強き波の夏，心深き詩人の秋，やがて来る心広き大地の冬”，あの四季の歌のごとく，巡る季節に想いを馳せる．やがていつぞや，木々草々が花咲き実を結ぶであろう．そのときが来ることを夢見て，まず種を蒔き・苗を植付けてみよう．庭に見る四季折々の草木花々の展開は，山あり谷あり，なだらかな丘あり，またひと休み，わが人生に似たところなのかも知れん．ならば，“できる辛抱はせにゃならん”，と思うこのごろである．